

## 平成25年度茨城県病院事業経営改善検証委員会(第2回)意見概要

日時：平成26年2月6日(木) 18:00～19:40

場所：県庁1106会議室

### 【メンバー】

城西大学教授（地域医療・行政学）	伊関 友伸
日立製作所日立総合病院長	奥村 稔
東京医科歯科大学大学院教授（医療経済学）	川淵 孝一
茨城県医師会長	小松 満(委員長)
公認会計士	清水 至
茨城県総合健診協会長（県医療改革担当顧問）	山口 巖

### 【主な意見】

#### (1) 第2期病院改革の取組み状況について

- 人件費を抑制するために、業務委託（アウトソーシング）が主流となっているが、消費税が増税になると、直接雇用の方が低コストの場合も出てくる。また委託の場合はノウハウも全然残らないので、そのようなことも考慮して職員定数に関する方針を考えていくことが必要。

#### (2) 茨城県病院事業中期計画（案）について

- 病院における施設以外の資産について、その状況把握が不十分だと、設備投資の予測が立てられないことがあるので、台帳等で実態をきちんと把握すること。
- 定数条例について、平成29年度で1,110人と見込んでいるが、今後診療報酬改定への対応などが出てくるので、定数の余裕は持っておいた方がよい。
- 県の医療をリードするというビジョンがしっかりしているところがよい。
- 設定された業務目標を達成すると、収入は増えるが支出も増えるので、収支のバランスは注意した方がよい。
- 県立中央病院が大学病院に準じる役割を目指すということは重要なこと。そのためには、研究が大きな特徴と言える。臨床研究は早い段階で色々な機関と関係を持つと、新しいアイデアも出てくるので、そういう機会は逃さないようにしてほしい。
- 県立病院として、県全体の看護水準の底上げをしてもらいたい。これはなかなか大学病院にもできないこと。
- 県立病院に医師を派遣する医局機能を持ってもらいたい。
- 収支計画においては、具体的にどのようにして収入を増やすのか等、収入や支出の根拠が示されるとよい。